

平成29年度 京都市立嵯峨中学校

■ 学校経営方針

- ① 新指導要領を鑑みた学力の向上を目指す。
- ② 地域の人的・物的教育資源を活かした地域に土着する学校経営を図る。
- ③ 生徒・教職員共に高い協働性に基づいた学校経営を図る。
- ④ 生徒・教職員共に所属感と存在感がもてる場の創造を図る。

■ 京都嵯峨学園教育目標

地域に学び、豊かな人間力を育む小中一貫教育をめざす

■ 学校教育目標

嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、「嵯峨の心」の育成を目指す

■ 目指す生徒像

「一生懸命はカッコいい」を実践する生徒

- ① 自ら率先する自発性と主体的に取り組む姿勢をもつ生徒
- ② 他者とのつながりを大切にし、優れた人権感覚をもつ生徒
- ③ 環境や伝統を大切にしつつ、自分自身で考え創造できる豊かな感性をもつ生徒
- ④ 自己有用感を礎にした高い志をもち、自分の人生を主体的に切り拓く生徒
- ⑤ 伝統や文化に立脚した国際感覚をもつ生徒
- ⑥ 恵まれた環境のなかで暮らすことに感謝と誇りをもち、地域に貢献できる生徒

■ 目指す教職員像

Ask not what your school can do for you; ask what you can do for your school.

学校があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが学校のために何を成すことができるのかを問うて欲しい

- ① 「全力を出し切る。途中であきらめない。(嵯峨中魂)」生徒の育成のために、熱い心をもって妥協することなく生徒と関わる教職員であることを目指す。
- ② 目指す生徒像の実現のために、自分自身もキャリアアップを目指して努力する教職員であることを目指す。
- ③ 教育目標を理解・共有し、チーム（組織）の一員として実践できる教職員であることを目指す。

■ 目指す学校像

築き上げてきた嵯峨中学校のアイデンティティを大切にしながらより高みを目指す

- 生徒が自慢できる学校（嵯峨中生であることに喜びと誇りをもてる学校）
- 保護者がわが子を行かせたいと思える学校（学力向上と進路実現が期待できる学校）
- 教職員が誇りをもてる学校（わが子を通わせたいと思える学校）
- 地域が共にありたいと思える学校（学校は地域 地域は学校）

■ 平成 29 年度重点目標

- ① 学力向上を図る取組の推進
- ② 新学習指導要領を先取りした教育課程の編成と実施
- ③ 小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実

■ 平成 29 年度重点目標の詳細

① 学力向上を図る取組の推進【積極的な授業改善】

- 主体的・対話的で深い学びの具体化
- 諸調査結果を生かした授業への改善
- 妥当性、信頼性を担保した学習評価への改善（評価ソフトの活用，説明責任の実行）
- 家庭学習の充実（宿題の質的向上とエスノートの活用）
- 放課後の特別学習会（GPSP）や長期休暇集中講座・定期テスト前学習会，土曜学習などの課題解決に向けた補充学習の実践
- 発達障害のある生徒への理解を深める研修の実施

② 新学習指導要領を先取りした教育課程の編成と実施【開かれた教育課程の実施】

- 3期制の実践（5回の定期テスト，各期末の成績提示）
- クロスカリキュラムの実施（研究授業）
- エスタイズの各取組の狙いの明確化と再編成
- 「特別の教科 道徳」の評価の実施
- 計画性及び将来設計能力育成のためのエスノート活用の深化
- 学校評価の再検討

③小中一貫教育（京都嵯峨学園）教育活動の充実【小中連携の推進】

- 地域を含めた小中連携による授業・行事等の取組（「京都嵯峨学園」としての取組）の推進
- 9年間を見通した学習指導計画の作成（小学校の学習内容の理解と系統性の検討）
- 小中一貫教育推進体制の推進
- 学園評価の再構築

■ 平成 29 年度研究指定

- ☐ 平成29年度「特別の教科 道徳」に向けた評価実践研究事業
- ☐ 平成29年度学習指導要領の改訂に向けた実践研究事業（予定）
 - ケ その他 クロスカリキュラムによる授業実践